

清友

No. 131

2020年7月

(2020年7月1日発行)

東京清掃労働組合退職者会

〒102-0072 千代田区飯田橋3-9-3 SKプラザ5F

TEL 03 (3237) 9995 FAX 03 (3237) 4541

日本で二番目に高い
北岳山頂より富士山

東京都知事選

小池都政公約「7つのゼロ」は実現ゼロ

STOP小池！労働者の味方へ投票を！

小池都政4年に
成果はあつたか

都知事選は、7月5日が投票日です。

現職の小池知事は、コロナ対策に乗じて意図的に露出を増やし、中身はなくとも妙に説得力のある弁舌と「やってる感」を見せることで、学歴詐称問題をかかえながらも、高支持率を維持しています。

小池都政に成果はあったのでしょうか。小池知事が4年前に掲げた公約7つのゼロ(①待機児童、②残業、③満員電車、④ペット殺処分、⑤介護離職、⑥都道電柱、⑦多摩格差)について、知事に好意的なマスコミは「ペット殺処分ゼロは実現、待機児童も半分近く減らしたが、その他は実現できていない」と報じています。実現したとされる「ペット殺処分ゼロ」は、対象を「譲渡可能な状態にある動物」に

限定したものでしかありません。都は17年度の殺処分数を16頭と報じていますが、環境省は「都の17年度殺処分数は202頭」と公表しています。都の統計は意図的で、実態とは異なっています。小池都政の特徴を如実に反映しています。

また、待機児童問題も無認可保育園を増やして保育の質を落とし、保育労働者の労働条件悪化を招いています。評価に値しません。



連合は小池支持 自治労は自主投票

この小池候補を、連合東京は「支持」することを明らかにしました。

自治労東京は、小池都政が水道事業等の民間委託を強行し、都立・公社病院の切捨てを狙っていること、築地市場移転問題の迷走など成果が乏

しい上に、関東大震災時の朝鮮人や労働者虐殺を否定し、「日本会議」議連副幹事長を務めるなど、小池氏の政治姿勢が反動的なことなどにより、「支持できない」としています。

一方、宇都宮候補の政策は、自治労運動と多くの点で一致しているとしつつ、野党統一候補となりえていないこと、その他の候補者も自治労政治方針と一致していないことから、「自主投票」としました。東京清掃は自治労東京と同様とする考え方を示しています。

退職者会の態度を三役会で議論しました。「宇都宮健児候補、山本太郎候補を推薦すべき」という意見もありましたが、現職労組の方針を踏まえ「自主投票」としました。「働くものと社会的弱者にやさしい候補に一票を！」をお願いします。



総会は「9月開催」「文書開催」「二年延期」を選択肢に

新型コロナウイルス感染拡大「緊急事態宣言」の解除を踏まえ、延期していた第13回定期総会を、9月下旬に開催する方向を明らかにしています。したが、東京のコロナ感染は収まる気配がなく、「無理をしない方がいいのではないか」という意見も頂戴していることから、「文書開催」「一年延期」も視野に入れて再検討することになりました。

■9月開催案

定期総会を9月下旬に開催する場合は、アルコール消毒やフィジカルディスタンスの確保などの感染防止対策をとり、懇親会も従来のような「密」になつてではなく、箱弁・ビール付の昼食会方式にするを考えています。

■文書開催案

しかし、東京ではコロナ感染者が「緊急事態宣言」解除前よりむしろ増えています。開催はリスクを伴うという心配があります。そこで、自治

労都本部や東京清掃が行っているような「文書開催」はどうかと考えました。

「文書開催」は議案書を会員に送り、議案の賛否を返信ハガキで投票していただく方法になります。問題は、賛否投票が過半数に至らなかった場合どうするかです。また、今年役員改選期ですが、実態的に対応困難になります。

■一年延期案

それなら、総会自体を一年延期してしまった方がいいと

秋の行事（親睦旅行、学習交流会、フィールドワーク）の検討

検討中の秋の行事は、①親睦旅行（10月下旬）、②学習交流会（11月下旬か12月上旬）、③フィールドワーク（11月下旬か12月上旬）です。

開催是非などを、7月6日の幹事会で判断します。

▼親睦旅行企画案

いう考え方もできます。

問題は、規約で「会計期間は1年、予算は総会で決定」と定めていることです。無理があるけれど、緊急事態だから幹事会で予算を決めるとか、予算の補正で対応することなどをしているかどうかです。

ただし、一年後、コロナの二次・三次感染で「緊急事態」なんてことも考えられます。

■7・6幹事会で判断

以上の「9月開催」「文書開催」「二年延期」のどれを選択するか、幹事会でじっくり議論して決めることにします。



親睦旅行の企画案は次の通りです。

◎旅行日 10月25日～26日

◎旅行先 鬼怒川温泉

伊東園ホテル直行バス（一般客同乗）1泊旅行、飲み放題宴会プラン・カラオケ付を仮予約しています。二日目の

午前中にミニツアー（「鬼怒川ライン下り」と「ロープウェイ」）を計画しています。

しかし、コロナの関係もあって応募者が少なく旅行会が成立しない危険性があります。その場合、「日帰り旅行」への切替えも視野に入れています。

▼秋の学習交流会

最近、学習交流会は春秋の年2回開催としてきましたが、今年度は秋のみとします。11月下旬か12月上旬に考えており、7月6日の幹事会でテーマなどを決めます。

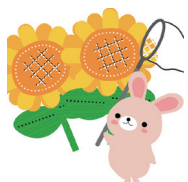
▼フィールドワーク

秋の行事としても一つ、11月下旬か12月上旬にフィールドワークもやりたいと考えています。

ただし、一泊旅行を中止して日帰りに切り替えた場合は、時期的に重なりますので、来春に延期することになります。

▼行事開催の前提

なお、退職者会会員は感染弱者であることを忘れてはなりません。秋の行事は、コロナがある程度収まること前提条件です。



東京清掃の組合員のみなさんへ 退職者会より感謝と連帯の意を込めて

新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、世界を震撼させています。

東京オリンピック開催に拘泥して初動態勢に問題を残した日本は、感染者数が急増する中、4月7日に「緊急事態宣言」を首都圏等に発令しましたが、歴代自民党政権が進めた病院の統廃合・病床削減や、保健所の統廃合・多機能化等により、検査機能劣化と医療崩壊危機を招きました。また、2月下旬の学校休校要請から始まった外出自粛やイベントの休止、各種施設・業務の休業・休館は、「緊急事態宣言」により「補償なき休業」が事実上強制化され、解雇や雇止め、休業補償不払いが横行、特に非正規、フリーランスなどの不安定雇用労働者の生活を直撃し、資金力の乏しい中小零細事業者を倒産の危機に追い込みました。

安倍政権の施策は、海外から「エイプリルフール？」と揶揄されたアベノマスクが象徴しています。日本のコロナ対策を支えているのは安倍政権ではありません。感染リスクと過重労働の下、懸命の努力を続ける医療や保健、介護等業務に従事する労働者、清掃事業など市民のライフラインを担う労働者です。

私たち、退職者・高齢者はいわば感染弱者です。私たちが安寧な生活を送れるのは、まさしく現役の皆さん方のおかげです。ここに篤く感謝申し上げます。

東京清掃本部より、皆さんがどのような環境下で作業をされているか、伺っています。感染者が排出した廃棄物がどこにあるかわからないというリスクに直面しながらの作業は、私たちが現役時代に経験したことの無い大変さだと思います。学校休校などによりごみの排出量が増え、毎日が回復作業のような状態にあり、ごみ袋が破裂する飛散事故等も増加傾向にあると伺います。本当にご苦労様

です。

一方、区民が感謝のこぼれをゴミ袋に貼るなど、心温まるメッセージが寄せられているとのこと、自分のことのようにうれしく思います。皆さんがふれあい収集をはじめ、日頃親身になって区民と接してきたことが反映していると推察しています。

「緊急事態」が解除されたとはいえ、東京では揺り戻しの傾向もみられるように、まだ安心できません。この先、第二波・第三波の感染拡大もあり得ます。これから猛暑の時期を迎えます。お体に気を付けて、奮闘していただきたいと思います。

また、今回のコロナ禍で、非正規労働者をはじめ多くの働く仲間が厳しい状態に立たされています。これらの労働者を支援し、ともに闘っていくことは労働組合の存在意義でもあります。東京清掃がその先頭に立って奮闘されることを期待し、退職者会としての感謝と連帯の意とさせていただきます。

2020年6月2日

東京清掃労働組合退職者会
会長 庄司 隆男



※6月2日、庄司会長より中里東京清掃委員長へ「東京清掃組合員への感謝と連帯」文書を手渡しました。

3ヶ月ぶりの国会議員会館前19日行動 モリ・カケ・桜は終わっていない！ 検察庁法改定廃案！安倍内閣退陣！

6月19日、新型コロナウイルス感染症対策のため4月と5月の開催が中止されていた毎月19日の国会前行動が、3か月ぶりに行われました。

岸まきこ参議院議員（立憲民主党）をはじめ各党国会議員は、「コロナ対策支援事業など会期延長が必要なのに、河井前法相・河井参議院議員夫妻逮捕に関する責任逃れのため、17日に国会閉会を強行したことは許せない」「モリ・カケ・桜は終わっていない」と安倍内閣の姿勢を批判しました。

続いて、日体大教授清水雅彦さんは、「学校の一斉休校は科学的根拠もなしに、安倍首相の一存で行われた。大統領的首相を気取る危険な安倍を倒そう」と訴えました。

沖縄一坪反戦地主会・関東ブロック共同代表の木村辰彦さんは「政府の辺野古新基地建設強行で、地方自治が危機に瀕している」と、日本

劇作家協会元会長の坂手洋二さんはコロナによる演劇界の現状について訴え、ジャーナリストの志葉玲さんは、政府の難民と入管法改悪の考え方を厳しく批判しました。

この日の参加者は1200人。退職者会は9人。コロナ対策で人的間隔を確保しての行動になりました。安倍を倒すまで頑張りたいと思います。



6.6 米軍横田基地反対集会



コロナ自粛が幾分おさまってきたよう
な6月6日、東京全労協等による米軍横
田基地反対デモが行われました。

横田基地にオスプレイが配備されて約
2年経ちます。周辺市街地ではホバリン
グ・低空訓練、夜間無灯火訓練が強行さ
れ、訓練区域も拡大しています。基地周
辺の井戸から、有機フッ素化合物が米国
基準の20倍もの濃度で検出されました。
泡状のものが風で飛ばされ、上流の都の
水源を汚染する危険性もあり、基地内の
汚染状況が報告されないことに対する不
安も、周辺自治体に広がっています。

春闘の会議も開けない状況ですが、私
たちは、いま声を上げなくてはならない、
行動を見せなくてはならないとの決意で
集会後デモ行進を行いました。この闘い
を、辺野古新基地建設反対、オスプレイ
木更津暫定配備反対、安倍政権打倒に繋
げていかななくてはなりません。（岡澤）



6月14日、新宿駅西口で「壊憲N
O！96条改悪反対連絡会議」主催
の「モリ・カケ・桜・賭博検事長疑
惑の責任をとり、安倍内閣は即時退
陣！」街頭宣伝が行われました。

二瓶代表の挨拶に続き、労組から
の発言として東京清掃中里委員長
は、コロナ禍の中で懸命に頑張る清
掃労働者の状況を報告し、23区清掃
事業の連携の必要性を訴えました。